

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

06

VOL.



2010. 9月下旬 近江八幡 西の湖のヨシ原

暑かった夏もようやく終わりに
めっきり秋めいてきました。
ヨシ原も葉は、まだ緑色ですが
穂は茶褐色に変わり、茎はもう既に
枯れ始めています。



みなさん前号の特集で紹介した野鳥の話は
いかがでしたか。中でもオオヨシキリについ
てもう少し調べてみました。

ヨシの
まめ
ちしき

オオヨシキリは名前のごとくヨシ原でしか住めない鳥でヨシがなくなったら姿を消す鳥です。

5月ごろに日本に渡ってきてヨシ原で繁殖し、9月ごろには東南アジアに帰って行く渡り鳥で、鳴き声は「ギョギョシ、ギョギョシ」と聞こえ、俳句では「行々子」と呼ばれ夏の季語とされているそうです。

オオヨシキリは、一夫多妻制のめずらしい習性を持つ鳥で、子育て出来るエサが豊富にある大きな面積のヨシ原に多く生息しているそうです。

ヨシ原を守り続けていく事は、オオヨシキリなどの野鳥の住み家を守ることに繋がっています。

びわ湖を知る ■ 問題



<問題> びわ湖の水位が観測史上
最も高くなった年はいつですか

- ①1874年
- ②1896年
- ③1910年
- ④2003年

特集 1 ページ



山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会
事務局長 藤本 秀弘 様より

生きもので賑わう「山門水源の森」

【山門水源の森について】

そもそもこの森の名前ですが、「やまかど」と読みます。

問合せの電話をもらうことが多いのですが、殆どの方が「さんもん水源の森は・・・」と切り出されます。

滋賀県長浜市西浅井町山門の集落の北側にある高層湿原を含んだ森をいいます。

滋賀県と福井県の県境に近く、冬は積雪が2mを超える事も珍しくありません。

このような位置にあるため、日本海側と太平洋側両方の生きものの境界にもなっています。それを代表するのがブナ(冷温帯)アカガシ(温帯)の分布です。

そのことは、写真(山門水源の森の春)の左上から右下へ続くいくつかの尾根に注目するとよくわかります。

尾根の南側(写真下側)は濃い緑のアカガシですが、北側は鮮やかな緑のブナになっています。

ブナとアカガシの分布は、遠く離れて見るとわかりますが、観察コースを歩いていて、南北のぶつかり合いを実感できるものにユキバタツバキ(写真)があります。

このツバキは、ユキツバキ(日本海側)とヤブツバキ(太平洋側)の雑種です。

ユキツバキやヤブツバキの花の色は、基本的には赤ですが、この森のユキバタツバキの色は、淡いピンクから黒みがかかった赤まで様々な色が見られます。

このような色のバラエティは、両者が交雑した結果生じたものと考えられます。



『山門水源の森の春』 (09/4/24)



『ユキバタツバキ』 (09/4/10)

特集

2ページ

【3万年もの歴史を秘める湿原】

森の中央には3万年の歴史をもつ山門湿原があります。この湿原は長い年月の間にミズゴケや草本類が堆積して作られたものです。

この堆積物の中には、九州から2.5万年前に飛んできた始良(あいら)火山灰が含まれています。

その頃の湿地の周りの森は、シラカバやツガなど現在の信州あたりに分布している植物が生えていました。その時代は、いわゆる氷河時代と言われる時代です。その名残の「生きている化石」と言われるミツガシワ(下写真)が分布しているのがこの湿原の1つの特徴です。

湿原には、サギソウ・トキソウ・ヒツジグサやクサレダマなど栄養が少ない所を好む植物が分布しています。

また、滋賀県は、99種のトンボが生息していると言われていますが、山門湿原にはその約半分の種類のトンボが生息しています。このような狭い湿原に多くのトンボが生息できるのは、湿原の中にいろいろな水環境がそろっていることと、周囲を広い自然林が囲んでいるという棲みやすい環境があるからです。もちろんチョウやガ・甲虫なども多くの種類が生息しています。



『南部湿原』 (09/2/28)

【生物多様性を保全するために】

この森は40年ほど前までは、薪炭林として利用されていました。薪炭林は、15~20年に1回の割で皆伐されました。ある場所の伐採が終わると、次の場所を伐採するということを何百年も繰り返してきた森です。木々が伐られた森の地面には、光が十分に当たるため、ショウジョバカマやスマレ・トキワイカリソウなどの背の低い草本類も生えました。これらは、森の昆虫にとっては欠かすことのできない食料(吸蜜)となっていました。この繰り返しで森の木々は、15~20年で新しい森に更新されてきたのです。また、里人は、この森から薪炭を運び出すために山道の整備を毎年繰り返しました。道幅よりもさらに広い幅で草刈りも繰り返しました。その結果、ササユリをはじめとする草本類が道ばたで毎年咲き誇っていたわけです。しかし、薪炭林として利用しなくなった現在では、誰かがこれに代わる作業をしないと、これらの植物は消えてしまいます。「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」は、この森の生物多様性を名称どおり次の世代に引き継ぐため、草刈り、砂防作業、林床整備、パトロール等を行っています。



『ミツガシワ』 (09/4/19)

尚この森は、水源の森百選(林野庁)・日本の重要湿地500(環境省)・ミツガシワ等生育地保護区(滋賀県)に指定されており、動植物の採取、ペットの持ち込み、火気扱いは禁止です。森の入口では、外部からの雑草の侵入を防ぐため靴底洗いをいただいています。お訪ねの際はご協力お願いいたします。

みんなの リエデン

開発グループ～福田さんより

～ブランドをデザインするということ～

世の中の全てのものに「名前」はあります。パソコン、お茶、窓、山、日本・・・「母さん、それ取って」の「それ」を示す役割が「名前」です。また、子供の名前には親の願いが込められていたりします。2009年の名付けランキングは男子『大翔(ひろと・はると)』で、女子は『陽菜(ひな・はるな)』が一番人気のようで、音の響きも可愛らしいですね。このように時代とともに名前も変化します。

ビジネスにおける「名前」も然りで、大変重要な役割があります。ブランドを示す「象徴」であり、商品をより良いものにイメージさせる「顔」であり、また、「商標」という法で守られたり、ネーミングという仕事があったり・・・言葉の力を感じながら、ちょうど3年前、この「ヨシを使ったエコな文具」のブランドにふさわしい名前は何か考えていました。ブランディングの最も難しく、重要な仕事です。

エデンに還そう
エデンに帰ろ。



名前を決めるーそれは、素材となる言葉を探し、言葉のS・M・Lを吟味することです。S・M・Lはサイズではありません。「Soundー音感」「Meanー意味」「Lookー形」の言葉の3つの要素をポイントに、言葉を調理していきます。まず、「葦葦き屋根」や「葦簣(よしず)」といったヨシの古いイメージを払拭したいのでヨシを「Reed」と英語表記にし、「音」から変えます。この文字と睨めっこを続けながら次に、このブランドは何をするのか、どのような物を生み出すのか見直します。私たちの活動には「ヨシでびわ湖を美しくしたい」という理念があります。

そもそもびわ湖をはじめとする自然環境は私たちにとって故郷のような、楽園のような存在であると考え、「楽園＝EDEN」が浮かび、ヨシで自然を還元し、また、私たち自身もびわ湖に帰って自然を見直そうという「還る、帰る」の意味を「Re」と表現します。

また、一目でどのようなブランドかを伝え、覚えてもらえるように、ヨシ原に棲息する「オオヨシキリ」という野鳥をモチーフにプラスし、文字に特徴をもたらし、さらに、みずみずしく深いびわ湖をイメージした色で構成します。こうした紆余曲折を経て「ReEDEN」のロゴは完成しました。

そして、もっと大切なことは訴求力です。分かりやすくコンパクトにまとめるだけでなく、読み手に感じさせ、行動させることができるか。

「美しい自然」を想像し、環境活動そのものを「ReEDEN」と言えるよう、商品だけでなく、もっと全国に活動を広めて行きたいと思えます。

花王 ラーメンの王様 [日清]

エドウィン

EDWIN DENIM (デニム) を分解

サントリー 創業者の名字、鳥井さんから

マロニー まろやかに煮えるという意味

マジックリン マジック×クリーン [花王]

エイトフォー

8×4 ドイツのメーカーの製造番号
「B32」から「32」にちなんだ
名前ということで
→8×4=32 [花王]

メンバーコーナー

里山の再生活動

京セラ(株) 滋賀蒲生・八日市工場
澤田様より

本工場では、生物多様性保全を目的とした森林整備に力を入れています。

【目指す里山】

本工場は、かつて薪炭林の里山として活用されていた布引丘陵に立地しています。工場内の山林は約2万㎡あり、整備することなく荒れた状態でした。この山林を、本来のコナラや赤松の植生を持つ里山として再生すべく活動しています。

【再生活動】

工場内の山林では6ヶ年計画を立て、2008年より倒木撤去や在来種(コナラ)の植栽、間伐等を行い、里山再生に向けて整備を進めています。また、工場内には、溜め池があり、そこに自生しているヨシを保全するため、ヨシ刈りを実施しており、飛来する水鳥の生育環境等の保護に努めています。

【里山再生】

整備前の林内は、高木層の木々間が葉で覆われ、日光が下まで届かないため、鬱蒼として暗く、林床でも種から芽生えた実生はほとんど無い状態でしたが、間伐や枝打ちなどの整備を行い樹木数を1/3にした結果、林内に日光がよく入るようになり、非常に多様な種類の植物の実生が確認されるようになりました。

こうして切り出した倒木は、近隣企業様で木質系のボイラー燃料等に活用して頂くなど、資源の循環利用ができています。また、再利用できない木製パレットと共に、粉碎処理したものは、構内緑地の草止めとしても利用しています。

写真は、協力会社が開発したウッドチップタイルの構内通路の施工事例です。

編集後記

今回の内容はいかがでしたか、「山門水源の森」滋賀県に高層湿原の森があるとは驚きです。みなさんも一度訪ねてみてはいかがですか。私も、取材で初めて知る事が出来ました。

また、京セラさんの取り組み、広大な敷地の中で、生物多様性に向けた環境保全を着実に進められており、いつも関心しています。他にも多くの活動があるとの事、次の機会に紹介させていただきます。

今月は、びわ湖環境ビジネスメッセを控え大忙しです。メッセでは、こんなネットワークの話題を盛りだくさんに紹介します。是非お立ち寄り下さい。また、ヨシ刈りシーズンが12月から始まります。詳しい情報は、改めて連絡させていただきます。(T・O)

・びわ湖環境ビジネスメッセが開催されます。
10月20日(水)~22日(金)
是非、当社のブースにお越しください。
小間番号F-26 でお待ちしております。

・今シーズンのヨシ刈り予定です。
伊庭内湖：12月に予定
西の湖：来年2月に予定されています。

お知らせ




山林整備のようす



溜め池でのヨシ刈のようす



ウッドタイルの活用

びわ湖を知る ■ 解答 

② 1896年(明治29年)

9月12日に記録された+3.76mmで彦根では直前に10日間で1008mmの雨量を記録したそうです。